

「平山小学校PTAの広田遺跡古代人キャンプ」の取組

1 学校名 南種子町立平山小学校

2 学年・人数 小学5～6年生（8人）、大人37人（計45人）

3 場所・日時

中之町公民館及び広田遺跡（7月16日～17日）1泊2日

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

広田遺跡（ひろたいせき）※国指定記念物（史跡）

(2) 遺跡の概要

広田遺跡は海岸砂丘上に所在する弥生時代後期後半～古墳時代後期（3世紀～7世紀）にかけて営まれた大規模な墓地遺跡である。サンゴ石を用いた墓と人骨、副葬品として南海産の大型巻貝を中心とした精巧で多彩な貝などが出土しており、当地域における生活風習や埋蔵習俗のあり方を知ることができる。

(3) 構成等（活動内容）

広田海岸一帯は種子島が北限とされるサンゴ礁が発達しており、そうした環境が遺跡形成の大きな一因となっている。広田遺跡古代キャンプとして、素潜り体験とサンゴ礁見学、古代料理体験、星空観察会、遺跡現地での宿泊体験などを通して遺跡とその周辺の自然について学ぶ。

5 保存会や地域との連携の具体

南種子町における埋蔵文化財の普及啓発活動の一環として、平山小学校上級生PTAが毎年行っている夏季キャンプに遺跡での古代体験を組み入れてもらうこととなった。キャンプの内容や日程については、その都度、学校・PTA・教育委員会で話し合い、活動における役割分担を行って準備にあたった。

また、素潜り体験とサンゴ礁見学では地元広田地区の「やっちゃあみろう会」（公民館青壮年部）や海洋関係の有識者、星空観察会ではJAXA（宇宙航空研究開発機構）の方々に協力いただいた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

実行に際し、多くの人に参加・協力いただく体制づくりに努めた。前述の協力者以外にも、以下の取組を併用し、より遺跡活用の充実を図った。キャンプ当日が青少年育成の日であったため、平山地区青少年育成部に声をかけ、地区の活動として海岸清掃を行い、遺跡の環境整備を行った。また、キャンプの対象者が上級生に限られたので、低～中学年の児童は午後から独自事業として広田川で川の生きもの調査を行い、年齢に応じた体験メニューをすることで全学年が参加できる活動とした。

7 取組の様子



素潜り体験をする子どもたち



古代料理体験（石蒸し料理）



海岸清掃



広田川生きもの調査

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

P T Aや学校と計画打ち合わせの中で要望や課題など様々な意見交換を行い、素潜りでのサンゴ礁見学は、最も広田の海に詳しい広田やっちゃあみろう会の方々に協力いただいたことで、当日のサポートはもちろん、適した体験場所、広田周辺の海の地形、潮の流れなど、安全を確保する上での情報を知ることができ、遺跡現地ならではの充実した体験メニューを立てていくことができた。

こうした協力体制で計画を進めてきたことで、キャンプ当日台風の影響で波が高く、素潜り体験が困難な状況であったが、何とか実行したいという参加者の希望があり、広田やっちゃあみろう会の方々が活動可能な場所を調査くださり、素潜りとサンゴ礁見学を行うことができた。その後の活動も星空観察会は曇天で星が見えなかったが、JAXAの方々が対応くださり、室内での学習会として行うことができた。

「はじめはシュノーケルでの息の仕方が分からず怖いと思ったが、海の中のサンゴや魚を見て楽しくなった。広田遺跡の海岸にどうしてあんなにサンゴが転がっているのか分かった。」活動後、参加した児童がこう話してくれた。